

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



この木を最後に紅葉の季節が終わる
(12月15日 大教会隣地より撮影)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ
祈る 動く つなぐ

立教176年
12月号

神様のお働きを
身で心で感じることに

海外伝道講習会開催

海外部

海外部(上原志郎部長)は11月21日、竹川俊治先生(飾東大部属・飾大分三代会長)を講師に迎え、大教会11月月次祭後に「海外伝道講習会」を開催、役員、部内教会長、布教所長、よぶぼく、信者ら多数が受講した。

竹川先生は自身の海外布教などを通し「親神様のご守護、ご存命の教祖のお働きをしっかりと自分の身体で、また心でつかむことが信仰をさせて頂く上で大切」と話された。講話要旨は次の通り。

○いつまでも現役

私は昭和33年、31歳で飾大分教会三代会長のご命を頂いて41年間、つとめさせて頂きました。10年程前、長男に会長を譲り今はフリーの身ですが、私の心定めとして生涯現役で通りたいと思っています。

のです。現役というのは、いつまでも、にをいがけ・おたすけをさせて貰いますという心です。現在もそれを実行させて頂いています。

○身上のご守護

私には大きな身上が二つありました。その一つが胃癌です。昭和31年のことです。入院治療していましたが12月31日、担当の医者から「正月は病院も先生も休みだから一回家に帰るか」と言われるので家に帰りました。しばらくして病院に行ったのですが医者が「あれ、君、癌が無くなっているよ」と言われたのです。「癌が無くなることがあるんですか」と聞き返すと「そりゃー君、医学の限りを尽くしたからね」と言われ「ありがとうございます」とお礼を言ったのですが、私自身の心定めと実行を神様がお受け取り下さってご守護頂いたと思うのです。

もう一つは動脈瘤です。動脈に瘤こぶが出る来る病気です。瘤が何かの弾みで出血すると100人いたら100人皆即死で、たとえ救急車で病院に運ばれたとしても皆死亡するという大きな身上です。ところがこれ

また、しっかりと心定めをして実行したらご守護頂き、現在通らせていただいています。

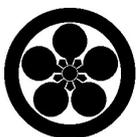
○海外布教への決意

教会長として通らせて頂いている時、欲が深いんですか、何か腹の底から込みあげる様な感動を得たいという思いが出て来ました。

毎日夜中の12時に神殿に行き、3日間何かヒントを与えて下さいと神様にお願ひしました。しかし何もありません。また3日間のお願ひをしましたが同じことです。3回目の最後、9日目の夜、夢を見ました。

どこの国かは分からないのですが、変わった民族衣装を着た人達が大きな通りをうろうろしているのです。そこを歩いていると人だかりが出来ている。50歳位の男性が、どこかが痛いらしくうずくまっついて意識がない。こりゃー病人さんや。おさづけを取り次がせて貰おうと思ひ「私は天理教の布教師です。おさづけというものをさせて貰いますよ」と言っつて、何処が悪いのか分からないので頭と胸にさせて貰いました。終わった途

<実行目標>人のたすかりを願ひましょう



おたすけ・お願ひカード 集計：21,489枚

平成25年10月21日～11月20日

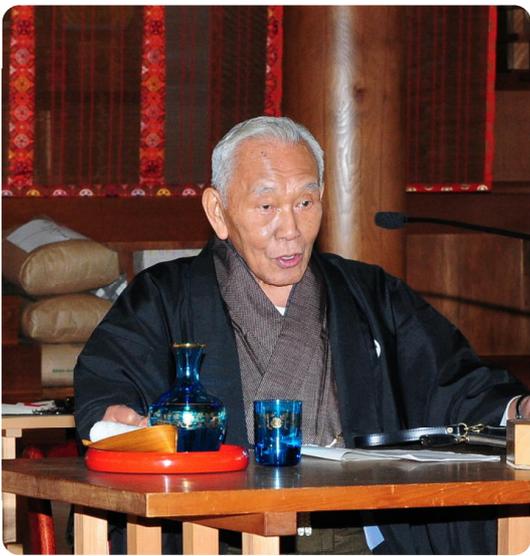
平成25年累計：108,503枚



端、男性が立ち上がって「ああ良かった」と言ったのです。ここで目がさめたのです。「何や、夢やったんか」と思いました。しかしよく考えてみると親神様・ご存命の教祖は海外布教をせよと仰っているんだと思い、結局、それが機縁となり何処でもいいから知らない所で単独布教をさせて貰おうという心を決めたのです。そして一度だけ団体で観光旅行に行ったことのある台湾で布教をすることに決めたのです。中国語も台湾語も分かりませんが、行ったら何とかかなると思っただけです。

○神様の先回り

台湾伝道庁へ参拝した帰り道、若いお母さんが乳母車を押してやって来ました。全然知らない人です。中に3歳か4歳位の重度の心身障害のある



「生涯現役で」と布教への熱意を話される竹川先生

男の子がいました。私は「ちよつと待つて」とお母さんを止めて、おさづけをさせて貰いたいと言ったが言葉が通じない。いろいろ考えた末「御供さん」を出して紙に「神様のお米」と書いて、その一粒を私が食べ他の一粒を子どもさんに与えました。文字が通じたと思うのです。そこで名前、歳、住所と書いたら、その方も書いてくれました。おさづけを取り次がせて頂きました。賑やかな街の真ん中です。これが台湾での布教の最初です。残念ながら子供は半年後に亡くなりましたが、両親は今も熱心に信仰して下さっています。

東京の布教の家に行った時のことです。街角で二人の婦人が立ち話をしていました。「私は天理教の布教師ですが、近くに病気とか他のことで困っている方を知りませんか」と尋ねたのです。その方達が懸命に考えて下さいました。そして「あそこに見えるタバコ屋の一軒隣の家に昨日、救急車が来たから病人さんがおられるのと違いますか」と教えて下さったのです。早速、行きました。留守でしたが表札が出ていました。聞けば総合病院へ入院しているとのことでした。病院に行きました。部屋をノックしたが何の応答もない。折角来たんだからと思いい中に入ると、若いご婦人が酸素吸入をされている。言葉をかけても全く反応が無い。おさづけを取り次いでいたら誰かが入って来ました。男の人です。そして「こら、お前そこで何し

てるんや」と怒るんです。「私は天理教の布教師でこの方に元気になって貰おうと思って、おさづけというものを取り次がせて貰っていた」と言うと「勝手なことをしやがって、出て行け」と言われたんです。ご夫婦でした。

東京で他に行く所が無い。何日か午前10時にその病院に行きました。自宅に帰られたと聞いたので、また午前10時に行きました。私はいろいろと神様の話をさせて頂き「どこが悪いのですか」と聞いても、ただ黙っているだけです。しかし日を重ねるうちに、ぼつりぼつりと自分達のことを話して下さったのです。

そのご夫婦は長野県の方で、親の反対を押し切って結婚し東京に来た。女の子が生まれたが亡くなった。そんな状態の中、主人が同郷の女性と関係していることが分かり、奥さんが自殺を図ったというのです。

「あると言えはばある。無いと言えは無い。願う心の誠から見える利益りやくが神の姿やで」とお聞かせ頂きます。台湾での、また東京での出来事も神様のお働きをつかんだからこそ「こうしたらいいよ」と神様がお教え下さったと思うのです。

○布教地での出来事

現在、台湾に教会二ヶ所、布教所三ヶ所のご守護を頂いています。今、台湾の教会に日本から一

人の青年が住み込んでいます。裕福な家庭の子です。しかし勉強、学校が大嫌いです。親が無理矢理入学の手続きをしたのですが、入学式に一回行っただけで、あとは一切行っていないのです。

台湾に教会を設立するため、ひのきしんにその青年を連れて行きました。何と台湾が気に入って「台湾で暮らしたい」と言うのです。勉強が大嫌いな子が独学で中国語、台湾語を勉強し今ではペラペラです。聞けば言葉が分からなかったら、若者同士の交流が出来ないから必死で勉強したということです。人間は面白いものです。青年は台湾で熱心に布教し先日数名の方を連れておぢばがえりをしました。

私も言葉も何も分からない中、台湾に行ったのですが、有難いことに、本当に腹の底からこみあげる様な感動を得られる様になったのです。現在84歳ですが、生涯現役で通りたいという思いからミャンマーに単独布教に行っています。不思議に次々と修養科生をお与え頂きます。

○願いの通りのご守護

毎日、生涯現役で通らせて貰おうという心を決めて通っているのです。ここに居られる方の殆んどがよふぼくになっておられると思います。しっかりと自分の身体で心で親神様がお働き下さってご守護下さっていることをつかまなくてはいい

ません。これが一番信仰する者にとって大事です。そして自分の身体で信仰して下さい。これが本物の信仰だと私は思います。

「人をたすけて、我身たすかる」「人をたすける理でたすかる」とお聞かせ頂きますが、私には身上も事情ありません。では「人をたすけたら、我身たすかる」ということはどういうことかと考えたら、親神はちゃんと浮かばせて下さいました。「こうして貰いたい、こうなって貰いたいと頼んだら、神様はちゃんと受け取って実現して下さい」と。

私は一人っ子なんです。兄も姉も早く死んで兄弟がいらないんです。淋しいです。そこで神様にお願いしたのが孫達の誕生です。そうしたら31人の孫を与えて頂いた。この孫達が結婚したら、ひ孫達もまた増えていきます。こちらの願いの通りに受け取って下さり実現させて下さっています。皆様方も折角信仰されているのだから、ほんまもんの信仰をして欲しい。私はそれを願っています。

何歳まで生かして頂けるか分かりません。朝起きて、ああ有難いなあと心の底から感動が上がりてくる。そして寢床の中で、ああ手が動く足が動く。もう嬉しくてじっとしておれない。天理教は本当に楽しい。お道の信仰は本当に有難い。もうこれでいいということは無いです。私はつくづく毎日そういうことを感じて「ぼつぼつ」やって

いますが、その「ぼつぼつ」が素晴らしいのです。手を合わせるだけではないけません。人間生活の目標は陽気ぐらしです。陽気ぐらしをするためにはしっかりとをいがけをしなければなりません。陽気ぐらしの要素はにをいがけです。

信仰というものは楽しい。お道の信仰は奥が深いなということをつくづくと感じさせて頂いている今日です。

《以上要約》

こころの詩

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されてきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載

▽12月8日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡分教会よふぼく 藤井光子さん

今年初熟成されし樽たるのふた

開ければふあっと味噌みその香のする

・芦分分教会教人 金谷眞佐代さん

たずね人 四日かかりて見つけたりし

神の御守護のお願いごとめに

▽12月15日付「時報俳壇」

・海松ヶ岡分教会よふぼく 藤井光子さん

句会後のハーモニカの音秋空へ



世界平和を願いよろづよ八首

外国語パンフレット配布
にいがけ実施
広島平和公園で
海外部

海外部(上原志郎部長)は11月18日、広島平和公園で外国語パンフレット配布にいがけを実施、5人が参加した。
当日は曇天で風が冷たい日だったが、原爆ドームを望む同公園でおちばに向かつて、世界平和を

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は11月24日、同委員・会員の結束高揚を目的に十三峠越えを行い、15歳のホープ岡崎学敏君(福岡県)をはじめ10人の精鋭(青年会会員9人・少年会員1人)が参加、「あらかとうりよう」の勢いをもって、こかん様の「浪速布教」の足跡をたどった。

先人の足跡辿り
十三峠越え
青年会

訪日者のほとんどは原爆資料館を見学。自国の核保有について思いを馳せている人もいると感じると共に「人間が助け合う姿を見たくて、創造された親神様の思召を伝えることは本当に意義のあるものだ」と確信し終えた。にいがけを通し語学力の向上も今後の課題。
(海外部員 上原 順子)

願って「よろづよ八首」のてをどりを行った。その後、2組に分かれて英語、中国語で書かれたパンフレットを持って。オーストラリア。アメリカ。アルゼンチン。イギリス。ロシア。カナダ。スペイン。フランス。イスラエル。フィリピン。—などから訪日した約40組に声掛けをした。
過去3回の実施に比べ、今回は話に耳を傾け聞く人達が大半だった。

当日は11月下旬ながら汗ばむ程の陽気な快晴の下、勇み心一杯に行路を進めた。道中、十三峠ではゴミ拾い、また法隆寺付近では路傍講演を行った。
おちば到着後は詰所でカレー食の歓待を受け、体の疲れは吹き飛んだ。
今回は、こかん様に想いをはせ歩いたが、年祭活動はあと2年。たすけの渦を巻き起こすべく、一人でも多くの方におちばに帰って頂けるよう、教祖のお供に、また、一層にいがけに歩く決意を固めた。(青年会副委員長 杉原善朗)



こかん様に想いをはせ十三峠越え

修養科終了母の声



修養科を終えて

上下分教会 山野 季彦

私は今度二回目の修養科生活を送らせて頂きました。一度目は百年祭を迎える前年であり、事情により入学しました。

このたびは身上により入りました。「身上・事情は道の花」とお聞かせ頂いておりますが、体験を通して身上や事情と心の在り方について、今まで考えてみなかった様々なことを学ぶことができました。この教訓を糧にして、更なる成人をお促し下さる親神様・教祖の親心にお応えさせて頂く決意を固めました。

数々の「守護と喜び

國須分教会 原田 一平

此の度び神様のお引寄せにより國須分教会、上小島分教会、上下分教会を通して修養科へ入らして頂き、山野先生、西村先生、三嶋先生、吉岡先

生他、沢山の詰所の方々心のこもった指導、お世話を頂き無事修了させて頂き真に有難うございました。

(おぢばへ帰らしてもらったのたすけてもらったこと)

「うつ病」九ヶ月間悩み苦しんでいましたが、三ヶ月間世俗と離れた生活で大変良くなりました。

「股関節の痛み」修養科へ入科してから痛くなり「憩いの家」でMRIの検査をしたり、杖をついて歩いたり、車で送ってもらったりしましたが、一ヶ月程で全快致しました。三ヶ月間、健康に恵まれ一日も休む事なく全てを勤めさせて頂くことが出来ました。

(教理の学び等)
教典の小栗真人先生、教祖伝の山本徹先生、お手振り・鳴物の市川善一先生三人の頭の低い素直な暖かい心の御方、教理への強い信念と実行力、素晴らしい多くの実体験をお話し下さった御方、何も知らない私共を御指導下さった御方にめぐり会えた事は望外の喜びでした。また多くの同じいんねんの仲間と出会い色々な人間模様を見ながら仲良く助け合いながら生活できた事は良かったと思います。

(詰所生活)

前述の三人の先生、外の方々のもと、無事生活できました事有難く思います。

「食事」安い食費なのに質素で美味な料理で満足でした。

「住居」十分な広さで空調付きで、寝具は清潔で夏用・冬用と完備していました。

三ヶ月修養科を通ってみて

福中分教会 穂垣 裕右

この度、私は叔父の勧めで修養科を志願させて頂きました。天理教の教理もおつとめも何も知らない状態で、「とりあえず奈良に行つて三ヶ月遊んで来い。これからの事はそこできつかり考えて来るんだ。この三ヶ月は君の人生を変えてくれる最後のチャンスだ。」そう叔父に諭されて私自身思うことがあつたので、訳もわからないまま叔父達に連れられておぢばに帰らせて頂きました。

未信者同然の私の天理教への第一印象は、「みんな黒いハッピーを着てる。この人達ちよつと危ないかもしれない……」でした。私以外の笠岡の修養科志願者はなにかしら教会につながつていて教理やおてもふりも理解されている方々ばかりでした。その中にいきなり放り込まれて、今まで生きてきてそこまで神様の存在を信じていなかった私としては、「この人達少し気が狂っているかもしれない。今からオレは洗脳されるんだ。こんなもん詮人間が作った後づけの話しに過ぎない。こ

いつらどうかしてる。」とか色々な感情がでてきて三週間目くらいまで、顔色が凄く悪く、詰所の先生方や教養の先生方にはご心配をおかけしました。

一ヶ月目は各々の身上、事情を見せて頂き、これまで、私自身体験したことのないストレスと不安で胸が押しつぶされそうになり、ここに来たのは間違いではないのかと疑念が湧くばかりで全く勇めない自分自身に苛立ち叔父に早く帰らせてくれと懇願して、ただのゴミ捨てと神殿の掃除と訳がよくわからない教理やおふでさきやおてふりに何の意味があるのかさっぱり理解が出来ませんでした。

二ヶ月目から少しずつひのきしんや徳積み、理作りをさせて頂く意味を理解し、身上・事情で苦しんでおられる人々への配慮、自分自身がこれからどう生きてゆくべきなのか、家族とどのように接し、用木として穂垣家を再興していくべきなのか、また教会と今後も付き合いを続けてゆくべきなのかなど、色々と思案して考えすぎて気持ち沈み、修養科を休んだり、奥歯全てが痛くなり虫歯かと思つて歯医者に行ったら、「かみしめる力が強過ぎ」と診断されて色んな事を我慢していたことに気付かされその結果が身上として出てくるのを悟らせて頂いたり、とにかく二ヶ月目は自身自身の心の修養として得るものは多かつたように

思います。

三ヶ月目はやはりもう後一ヶ月で帰れるという期待とこの先、仕事をする事への自分の未熟さ甘さなどに気付けた一ヶ月だったように思います。

最後に、新しく用木になったからには周りの困っている人、悩んでいる人がいたら時と場合に応じてはたすけていかなければならないと思ひ、今まで他人に対して無関心、冷酷な性格が天理教を信仰することで優しい温かい心の持ち主に生まれ変わることができたと思います。
天理教と出会えてよかつた。

こころの詩2

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましてので転載させて頂きます。おめでとうございませう。

▼養徳社発行『陽気』誌十二月号、「道柳」より転載。今回の課題は「生」。

▽秀 詠

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

生かされてご恩がえしの八十路ゆく

▽佳 詠

・川島郷分教会前会長 香取敏子さん

一日を生涯として日々歩む

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

教会おとまり会の報告

▼笠尋隊

実施日 25年11月3日(日)〜4日(月)

1泊2日

参加者数 少年会員9人 育成会員5人

合計14人

プログラム

3日 10:00 月次祭参拝

(日) 12:30 食事ひのきしん

(準備、片づけ)

14:00 ゲーム

17:30 タづとめ

18:00 夕食 食事ひのきしん

19:00 まなび 神様のおはなし

20:00 お風呂 消灯

4日 7:00 起床

(月) 30 朝づとめ

8:00 朝食 食事ひのきしん

9:00 解散

所感 今年はず次祭参拝の計画を取り入

れ、子供たちも興味深く参拝することができました。連休でしたが、多くの少年会員が集ま

てくれにぎやかに行くことができました。

温故知新

いきいきエピソード 31

教理への探求心

三代会長はほとんど生涯に亘って日記をつけていた。小忠実な人であった。その日記が大教会史編纂にあたって随分と役にたった。達筆であるが読みにくいので、妻(上原順子)に依頼して日記の一冊一冊を三代会長に読み下して頂いて原稿用紙に書き取って貰った。大変な作業だったが、父親(三代会長)は忙しい日課の中で時間を割いて最後までつきあってくれた。

今思えば、私達夫婦が、私は道友社に妻は専科日本語科に勤務して天理に居たことがまことに都合よかったのだろうと思う。台湾伝道庁長に赴任の間の出来事の大教会史年表への記載事項のほとんどは、この日記に依っている。

その日記帳の余白(余ったページ)にいろいろと書き並べてある。

例えば、いろは順にどこから引用したのかわからないが、次のように短い言葉が書いてある。一代はさんげの世つくしの世くるしみをた

のしみに通りてくれ

ろ 論をするのは世界の理 神の道には論はな

い

は はなし聞いても理の聞き分けなくばはなし

聞かぬも同じ事

に 人間の理を立てるからだんだん道の理がう

すうなる

ほ ほんになるほどという理があれば六つかし

いやない

へ へだて無いのが神の道

と 通りよい道通りては通りにくい道がある

ち 知恵や学問でゆく道やない

「多ひ(酔い)もせず」まで続くのであるが、

当時の天理の刊行物にでも載っていたのであるうか。

これの記述の後に「大教祖年代記」として寛

政十年から明治二十年までを年代を追って誌してある。その次におさしづ抜粋、またおふでさ

き抜書、またおことば抜書として、これもおさ

しづの一節一節だと思いが書き連ねてある。

他の日記の余白には、十一通りのかぐらづとめの地歌、またその手振りが簡単な人の形を書いて誌してある。かぐらづとめ十一通りの地歌

は昭和初年頃の「おふでさき講習会」の時に述

べて下さっているのが、みちのともにも収録され

ているから出所はわかるが、その手振りまで当

時の講習会で実際に振って見せて下さったので

あろうか。随分と教理には探求心があつたのか

など思う。

「天啓録」と題した小冊子を作っている。「明

治二十一年 上原さと三十七年 身上御願」から

始まるおさしづ集であるが、東・高知・芦津など

関係教会に戴いたおさしづが年代順に毛筆で手

書きされている。

私はかねがね上原家に戴いたおさしづを年代順に収録してみたいと思っているのであるが、

三代会長も同じ思いがあつたのかなど、収録されているおさしづを眺めながら思った次第である。

それにしても、忙しい教務の合間にこうした

教理探求に過ごしていた求道者としての父親の姿に、頭の下がる思いがする。こうした体験が

あればこそ、大教会史の取材でいろんな疑問点

を尋ねた時、「それはな・・・」と穏やかな調

子で話してくれたんだなど、今思う。

(前史料部長)

<年祭活動推進委員会>

○「祭典報告書」記載上のお願い

- ・各教会宛の年末配布物に『「祭典報告書」記載上のお願い』と題した「年祭活動の主旨文」を入れております。これをよくお読みの上、毎月の「おさづけの取り次ぎ回数・にをいかけ件数」の目標数と実数(成果)を「祭典報告書」に記入してください。

<会 長 室>

○老会長様30年祭・前会長様20年祭・老奥様20年祭

日 時 1月30日(木) 午前11時 於：大教会祖霊殿

○前奥様1年祭

日 時 8月30日(土) 於：大教会祖霊殿

<庶 務 部>

○ようぼくの集いの配付資料

- ・「案内状」・「参加票」が足りない場合は、庶務部に申出てください。
- ・「教区別開催会場一覧表」は余部に限りがありますので、コピーしてお渡しします。
- ※『教区別開催会場の「会場追加・変更・中止一覧」』を各教会に1部ずつ配布しましたので、「教区別開催会場一覧表」を信者さんに配布する前に、特に**「変更・中止」分を、各教会において訂正してから、配布**してください
- ※実際に信者さんに配布するまでには日数がありますが、**「教区別開催会場一覧表」の訂正**や**「参加票」の記載**が難しい場合は、庶務部・岡崎(090-7508-8135)にご相談ください。

<育 成 部>

○よふぼく勉強会(立教177年上半期の予定)

	テ ー マ	担 当 者
3月	教祖のお話し	大 教 会 奥 様
4月	親 孝 心	高 木 孝 子 (湯田原分教会長夫人)
6月	八 つ の 埃	吉 岡 貞 彦 (芦田川分教会長)

<詰 所 掛>

○春季大祭詰所受け入れひのきしん

割 当 東・西・福山・高屋の各ブロックより1名ずつ

期 間 1月25日昼食～27日昼食

- ・おつとめくださる方の氏名を1月20日までに詰所に連絡してください。

○月次祭時の詰所宿泊について

- ・配食・部屋の割り振りの都合上、2日前までに申込み願います(例えば、25日宿泊の場合は23日までに申込み)。

笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	婦 人 会	青 年 会	少 年 会	学 生 会 学生担当委員会
1				
2	22 委員・直轄委員部長研修会			
3				3~9 学修 大学の部 28 春の学生おぢばがえり
4	19 婦人会本部第96回総会 (午前 9:30)		30~1 鼓笛合宿 1 笠岡団おつとめまなび総会	27 おぢば管内新入生歓迎会
5			21 縦の伝道講習会	
6	28・29 こかん様に続く会	1~24 おやさとふしん 青年会ひのきしん隊		21 学生層育成者講習会
7				
8		15・16 あらきとうりょう入門塾 31 ひのきしん団参	22~24 キャンプ 28 テッチャンと遊ぼう (わかぎのつどい)	9~15 学修 高校の部
9		7~14 全分会布教推進週間		
10	23 委員部長後継者講習会	27 第90回天理教青年会総会		
11				
12				
備 考	◎例会日(毎月3日) ◎直轄委員部長連絡会(21日) ◎ひまわり会(1日) ◎女子青年例会(随時) ◎大教会掃除ひのきしん (毎月19日)	◎有志ひのきしん隊(毎月)	◎教会おとまり会の実施 ◎テッチャンシアター (親子参拝)	

◎よふぼく勉強会 毎月21日 午後1:15~2:00 (2月・5月・11月は休み)、おさづけの取次 毎月次祭直後

立教 1 7 7 年(平成26年/2014年)

部会 月	全体行事 その他	ひのきしん	布教部	海外部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議 30 老会長様ご夫妻・ 前会長様年祭	11~20 直属ひのきしん特別隊 (島根ブロック) 25~26 春季大祭詰所受入	26・27 教会長講習会(笠岡詰所)	
2	2~15 部内巡教 23 雅楽勉強会 28~3/1 修養科修了講習会	16~28 本部食堂(福山ブロック)		
3	2~15 部内巡教			英文パンフレット配布
4	13 ようぼくの集い (笠岡大教会会場)	11~20 直属ひのきしん特別隊 (西ブロック) 17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	29 全教一斉ひのきしんデー	
5	4 大教会長杯親睦スポーツ大会 4~18 直轄教会定期巡教 25 別席・ひのきしん団参 28・29 修養科修了講習会	1~15 本部食堂(上府ブロック)		タンザニアおたすけ訪問
6	28・29 雅楽講習会			
7		16~31 本部食堂(高屋ブロック)		
8	26~4 こどもおちばがえり 28・29 修養科修了講習会	25~4 こどもおちばがえり詰所受入 前半：7/26昼~30昼 後半：7/31昼~8/4昼		8・9 英語講習会
9	23 笠岡にをいがけデー 統一活動日		1~30 布教推進強調月間 28~30 全教一斉にをいがけデー	
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝	1~15 本部食堂(東ブロック) 25~26 秋季大祭詰所受入		
11	23 若人のつどい (大教会) 28・29 修養科修了講習会			英文パンフレット配布 21 海外伝道講習会 (月次祭に合わせて)
12	20 心定め提出 22 年末大掃除	27 詰所餅搗		
備考	◎部長会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後1:00 ◎役員並びに直轄教会長会議 毎月29日 午後2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後2:00 ●雅楽会練習 毎月次祭前日夕勤後 舞楽練習 随時	註：ブロックの区分けは 東：岡山県以東の直轄教会とその部内教会 西：広島県以西の直轄教会とその部内教会 上府：上下、府中市	◎おかえり講話 4月18日、5月25日、 10月25日	◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふぼく月報

◎部長会議・役員会議・役員並びに直轄教会長会議：2月は末日、4・7・9・12月は20日(直轄教会長の集いに替えて行なう)

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げませ

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに天然自然のお働きを通して身体と心通りの御守護を下さると共に「にち／＼にみにさ／＼つくとくしんせ 心ちがいを神がしらす」と身上や事情にしろしを見させて心得違いをお知らせ下され常に陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございますしかしながらせつ／＼しるしを見せて救いて頂いても 医者や薬のお陰と思ひ誤り 親心に気付かず又心得違いに気付かず陽気ぐらしから遠ざかっている人が多くいます事は誠に残念でなりません 私共はそうした人達に少しでも親心に触れて頂き 陽気ぐらしへの足取りを進めて頂きたいものと「かしのかりもの」の御教えを心に朝夕に御礼申し上げると共にご恩報じを念じてたすけ一条の御用の上に勤め励まして頂いております

その中にも今日の吉日は月に一度の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 日頃の喜び感謝の心とたすけ心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをとめて十一月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寒さ厳しさを増す中も厭わず寄り集いました道の子供達が 持ち寄りました二万一千四百八十九枚のおたすけお願ひカードに込められた皆のたすけ心に自分のたすけ心を重ね合わせて共に声高らかにお歌を唱和する皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいませようお願い申し上げます

さて本年もあと残すところ一ヶ月余りとなりました 改めてこれまでの歩みを振り返ってみますと昨年の秋の大祭での諭達御発布を受けて諭達の徹底とそれを受けての大教会の方針の徹底を計る上から一月は直轄教会へ二月三月には全部内教会へ 加えて四月にかけて追加の五カ所の諭達巡教を実施させて頂きましたところ二千八百名余りの人に受講して頂き 共々に教祖百三十年祭に向けて三年千日と仕切つての成人の歩みを始めさせて頂きました そして五月には別席ひのきしん団参をさせて頂いて順調に成人の歩みを進めさせて頂いておりますが 残念ながらまだまだ諭達の主旨徹底がなされず多くの人が実動に至つてないように思われます 本年に残された日時しっかりと声掛けさせて頂き 一つの活動になるように丹精させて頂く所存でございます 又本日祭典に引き続き海外布教推進講習会を開催させて頂き 海外にまで心を広げる事によってその地盤である国内布教をより充実させて頂く所存でございます

何卒親神様には 世界一列を救いたいとの親心に応えるべくたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜りたすけたい一条の親心一杯の御守護である事に気付かせて頂いて御恩報じの上からたすけ合う人が増して 神人和楽の陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

登殿参列

◎第1回

立教176年6月26日

(参列者は本誌7月号に掲載)



第一回 登殿参列

立教百七十六年十一月月次祭 祭典役割表

役割	区分	て おつとめ を どり										地方	
		ちやんぼん	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	控	え		
役割	区分	て おつとめ を どり										地方	
		田中隆之	河原節喜	笹尾正治	上原志郎	森本忠平	岡崎真一	今川佐智子	佐藤香苗	上原順子	高木昭祥		
		横山小智榮	佐藤真孝	上原誠一	吉岡誠一郎	武内清明	内海史郎	浅野明教	門脇加津	森本富美子	武内正美		
役割	区分	て おつとめ を どり										地方	
		谷内美知子	笹尾一美	横山逸郎	虫明立生	赤木素志	田林久嗣	岡崎輝彦	中村道徳	上原順子	三島照美		高木孝子
		今川昌彦	谷内伸自	中村剛	谷内伸自	今川昌彦	岡崎豊子	谷内美知子	岡崎初美	杉原博之	岡崎真一		中村邦義
役割	区分	て おつとめ を どり										地方	
		山田敏教	中村邦義	中村邦義	山田敏教	中村邦義	山田敏教	中村邦義	山田敏教	中村邦義	山田敏教		中村邦義
		佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝		佐藤道孝

講話	海外布教推進講習会
一月講話	大教会会長様
祭主	大教会会長様
扨者	岡崎真一 杉原博之
賛者	高木昭祥 田林久嗣
指図方	上原繁道



第二回 登殿参列

◎第2回 立教176年11月26日

中村剛(久松)、岡本久善(摩耶)、今川昌彦(金浦)、吉岡誠一郎(興明)、掛谷宣和(坪生)、矢田哲一(八尋)、藤本基喜(惠)

陽、佐藤哲(御野)、武内清和(香地華)、猪原啓文(真金)、猪原啓介(門司港)、谷本里喜男(高丸)、渡邊泰造(品治)、佐藤憲美(久福)、佐藤久枝(呉福)。

大教会だより

Ⅱ 教会指令 Ⅱ

◎任命願・附属建物増築及屋根葺替願

陶山 分教会

*前任 上原 繁道

*新任 上原 繁次

☆奉告祭 立教176年12月15日

立教176年11月26日承認

◎第八六九期修養科

自 立教176年9月1日

至 立教176年11月27日

*教養掛

三ヶ月間 山野 弘実

(大教会准承事)

上下分教会長

一ヶ月目 西村 彦一

(瑞雲分教会長)

二ヶ月目 三嶋 正教
 (笠尋分教会長)
 三ヶ月目 吉岡 貞彦
 (芦田川分教会長)

＊修了者

上下 山野 季彦
 福中 穂垣 裕右
 國須 原田 一平
 國須 河田 正彦
 多古浦 余村 久美子
 多古浦 余村 有希子
 國須 河田 和江

◎教会長資格検定講習会修了者

立教176年11月19日終講
 木津和 丸山 優樹

表彰

◎青少年健全育成に寄与

…………… 国務大臣表彰
 橘高祐高さん

橘高祐高さん(85歳・國須分教会長)は11月20日、総理大臣官邸大ホールで行われた平成25年度「子ども若

者育成・子育て支援功労者表彰」の席上、森まさ子・内閣府特命・国務大臣(若者育成担当)から表彰を受けた。

50年以上の長きにわたり、青少年を対象とした自由で健全な弁論大会の運営に携わり、明るく健全な地域社会の発展と青少年の健全育成に大きく貢献したものです。

今回の表彰は12団体と3人。12団体と2人は県または市からの推薦。橘高さんは文部科学省から推薦された。

◎援護事業に寄与

…………… 厚生労働大臣表彰
 高橋伸吉さん

高橋伸吉さん(82歳・広島県府中市・廣町分よふぼく)は11月22日、田村憲久・厚生労働大臣から表彰された。

社会福祉事業などを通し、多年にわたり援護事業に貢献したものです。また府中市市議会議員として12年間務めた。

◎交通指導・児童見守りに寄与

…………… 福山市長表彰
 佐々木義治さん

佐々木義治さん(64歳・福山市駅前町・産品分所属)は12月14日、羽田皓福山市長から善行市民(せんだん賞)表彰を受けた。

長年にわたり交通指導員として、登下校時の交通安全、児童の見守り活動に取り組み、事故防止と不審者撲滅などに尽力したものです。

訃報

西村道榮 姉

瑞雲分教会前会長
 十二月十三日出直されました。
 享年九十一才



今年の春、私たちの住む地域に自主防災会が出来ました。近くの公会

堂は海拔が低く、水害に対して弱いので、比較的高い所にある自教会を一時避難所として提供したところ地元の方がとても喜んで下さいました。その時、災害に備えて一度見学させて欲しいという声もあり、11月の下旬に防災学習と災害マップを基にした避難訓練が実施されました。このときの様子が地元のケーブルテレビで放送されましたが、画面に自分の顔がアップで紹介されると、テレビは正直なものでしょうが、恥ずかしくてため息が出ました。それはさておき、放送後、お礼を言っ下さる近所の方に「役に立たない方がいいんですけどね」と、お答えすると、一様にきよととされるので、「大きな災害が起これば、避難所としての利用がないことを祈っているんです」と続けたら納得されました。できることなら、災害のない世の中を御守護いただけることを願ってやまない年の瀬です。(か)